

医療・介護に携わる皆さん、共に考えましょう

終末期において「その人らしく」を支えるために ～在宅医療現場で「食支援」の在り方とは～

■ 日時 10月14日(土) 午後3時～6時

■ 会場 小倉歯科医師会館2階ホール (小倉北区大手町 11-6 TEL093-581-0550)

■ 参加費 無料 (準備の都合上、事前に申し込み下さい)

地域包括ケアシステムが機能するためには、在宅での終末期ケアに対してさらなる関心を持つことが求められるにも関わらず、「死にゆく患者」とかかわる経験が浅いことなどによって、終末期ケアに対する知識や技術が十分に確立されていないようです。そのため、当協会北九州支部ではこのことに応えるために、歯科医師・歯科衛生士の他、医療や介護に携わっている専門職や介護家族を交えて、「終末期において『その人らしく』を支えるために ～在宅医療現場で「食支援」の在り方とは～」をテーマにした講演会を開催することにしました。平穏に最期を過ごすためのケアとして、「食支援」の在り方について共に考えてみましょう。

■ 講演1: 「食べたい」「食べたくない」それぞれの思いに寄り添う

講師: 訪問看護ステーションはんずあい 代表 **高橋 貴子** 先生 (緩和ケア認定看護師)

主旨: どんな疾患であれ終末期は嚥下機能が低下してくる。本人の思いに寄り添い、平穏に最期を過ごすことができるように、医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士、その他関係職種との連携が大切であると思う。

■ 講演2: さいごまで食べたいを支援する ～多職種との連携が鍵～

講師: ひとえ歯科クリニック 院長 **宇都 仁恵** 先生 (歯科医師)

主旨: なんらかの病気や加齢により終末期と宣告されて限られた時間で人は何を望むだろう。それは、ひと様々であるが「さいご」まで口から食べたいと思うのは誰しも共通ではないだろうか。今回は多職種との連携で経口摂取に移行する取り組みをした事例をあげながら、誤嚥性肺炎などについても考察したい。

■ コーディネーター: 福岡県立大学看護学部臨床看護学系 准教授 **榎 直美** 先生 (看護師)

■ 主催・問合せ: **福岡県歯科保険医協会 北九州支部**

Tel 092-473-5646 / Fax 092-473-7182 / Eメール fukuoka-sk@doc-net.or.jp

医療・介護に携わる皆さん、共に考えましょう
 終末期において「その人らしく」を支えるために
 ～在宅医療現場で「食支援」の在り方とは～

ご参加申込用紙

返信先 FAX 092-473-7182

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-3 博多駅前第一ビル8F
 TEL 092-473-5646/FAX 092-473-7182/Eメール fukuoka-sk@doc-net.or.jp

施設名 _____ (合計 _____ 名)

Tel

連絡先 _____

FAX _____

参加者氏名	職種	参加者氏名	職種

